

科目NO. 2		配当時期		担当者	
科目名		2年次前期			
科学的思考の基盤		単位数			
自然現象と科学		1単位		たかにし よういち	
時間割表記名		時間数		高西 陽一	
自然現象と科学		20時間(10回)			
科目のねらい 自然現象を引き起こす物質の構造や運動の法則から生活・看護技術につながる知識を養う 授業目標 自然現象を引き起こす物質の構造や運動の法則から生活・看護技術につながる知識が理解できる				DPとの関連	
				人間理解	
				倫理・関係構築	
				看護実践	
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
1. イントロダクション。計算の物理的意味。					
2. 運動と力。たし算ひき算、かけ算、そして割り算。					
3. 運動と力。力とエネルギー。					
4. 熱。エントロピーは増大する？					
5. 音と光。波は混ざり合う。					
6. 電気と磁気。「場」ってなんだ？					
7. 放射線。「爆発的に増加する」って？					
8. まとめ					
9. 全体のふりかえり					
10.					
受講上の注意				評価方法	
計算機を持参すること				筆記試験 (ただし出席を加味することがある)	
使用するeテキスト		使用するテキスト			
物理学					
参考となるeテキスト		参考文献			

科目NO. 3		配当時期	担当者
科目名	科学的思考の基盤 研究論文作成入門	2年次後期 単位数 1単位	はやかわ ふみとし 早川 文敏
時間割表記名	研究論文作成入門	時間数 20時間(10回)	
科目のねらい		DPとの関連	
論証の成り立ちや理論の構造について学習し、思考力および表現力を養う。		人間理解	
授業目標		倫理・関係構築	○
技術文書の執筆上のマナーを理解し、理解しやすく客観性を意識した文書を作成できる。		看護実践	
		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	
1回	科目ガイダンス 学術文書の種類；研究論文、報告書・資料、総説等	学術論文とは何かを理解する。	
2回	研究論文の書き方・読みやすい文書の書き方 文体、段落・パラグラフ、一文一意	研究論文作成における基礎的な様式・作法を理解する。	
3回	論文への出発 研究テーマの設定 疑問・問いから研究テーマ設定へ	これまでの学習から、自己の研究テーマを設定できる。	
4回	資料の収集 文献検索と収集	研究テーマに関する文献を収集し、テーマの精選を図る。	
5回	情報の整理と利用	見つけた資料から必要な情報を取り出して自分の論証に援用する際にはどのような注意が必要かを理解する。	
6回	論証の理論と練習問題②	論証とは、科学的に思考するとはどのようなことかを理解し、論文構成能力を高める。	
7回	論証の理論と練習問題②	論証とは、科学的に思考するとはどのようなことかを理解し、論文構成能力を高める。	
8回	論証の評価と練習問題	適切な論証とそうでない論証を区別するにはどのような手順をとる必要があるかを理解する。	
9回	研究レポート作成①	自分の研究テーマに取り組み、論文執筆能力を高める。	
10回	研究レポート作成②		
受講上の注意		評価方法	
社会問題に関する文章を日頃から読み、関心を持つこと テキストの学習箇所をよく読み、復習すること 宿題の意図を理解し、自分の言葉で論述・完成させること		レポートと授業態度による評価	
使用するeテキスト		使用するテキスト	
		『学術論文の技法』 斉藤孝・西岡達裕 著、日本エディタースクール出版部	
参考となるeテキスト		参考文献	

科目NO. 11		配当時期	担当者
科目名	人間と生活、社会の理解 語学コミュニケーション(中国語)	2年次全期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	劉 建
時間割表記名	語学コミュニケーション(中国語)		
科目のねらい 現在の国際社会に対応できる基礎的なコミュニケーション能力 と医療に関するコミュニケーション能力を養う 授業目標 中国人患者と基本的な意思疎通ができるよう、中国語を聞く、話す、 読む、訳すという実践的な表現力と応用力を身に着けること。			DPとの関連 人間理解 ○ 倫理・関係構築 ○ 看護実践 協同・課題解決 探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) 一、発音方法を紹介し、単語の音読みや一口会話を無理なく習得する。 二、基礎文法を紹介しながら、日常会話や基本文型をたのしく練習する。 1、発音入門(1) 2、発音入門(2) 3、＜自己紹介＞ 名詞述語文 4、＜病院案内＞ 存在文 5、＜問診確認＞ 所有文 6、＜既往病歴＞ 動詞述語文 7、＜治療診断＞ 形容詞述語文 8、＜骨折療養＞ 助動詞 9、＜問診処方＞ 補語(1) 10、＜問題解決＞ 前置詞 11、＜予約通院＞ 進行の表現 12、＜外科急診＞ 補語(2) 13、＜入院生活＞ 補語(3) 14、＜快復退院＞ 兼語文 15、まとめ			評価方法 平常点 30点 筆記試験 70点
受講上の注意 受講姿勢を重視し、積極的に練習することが望ましい。 日本人にとって一番馴染みやすい中国語をたのしもう。 テキストの構成により、辞書を購入する必要はない。			使用するeテキスト 使用するテキスト 『メディカル基礎中国語』(劉建 著 白帝社) 参考となるeテキスト 参考文献

科目No. 13		配当時期	担当者	
科目名	人間と生活、社会の理解 グローバル社会の理解	2年次前期	にいやま ともき 新山 智基	
時間割表記名	グローバル社会の理解	単位数 1単位		
		時間数 20時間(10回)		
科目のねらい ・グローバル社会におけるキャリア開発をテーマに、職業観あるいは、専門能力とはどのようなものかを明確にしつつ、キャリア意識を伸長する。 ・グローバルな課題についての視野を広げ、専門職としてのキャリア意識を高める。			DPとの関連	
授業目標 1. 現代社会を地球的観点から捉え、国際社会の構造や社会・文化的多様性の諸相を考察する。 2. 自分が所属する社会の文化と異文化を比較検討する。 3. グローバル化する社会における現代的な諸課題を考察する。			人間理解	○
			倫理・関係構築	
			看護実践	
			協同・課題解決	○
			探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	学習成果		備考
1回	科目オリエンテーション 科目のねらい、目標、学習方法 グローバルゼーション概論	グローバルゼーションの概要を理解する。		
2回	異文化理解と多文化共生① 国家と民族、人種、文化 世界の主な文化圏と居住地域	国家・民族とは何か、世界の人種・文化の概要を理解し、世界がどのような文化圏で成り立っているかを理解する。		
3回	異文化理解と多文化共生② 在日外国人の推移・内訳 在日外国人へのヘイト	在日外国人の推移と内訳を理解し、多文化共生のためにどのような課題があるかを考察する。		
4回	異文化理解と多文化共生③ 多文化共生における課題	多文化共生のための取り組みを調べ、多文化共生のために、自分は何ができるかを考察し、意見を交換できる。		発表・討議
5回	世界の文化圏・人口・難民の問題	世界の文化圏・人口・難民の状況を調べ、どのような課題があるかを考察し、意見を共有する。		
6回	世界の女性問題・ジェンダー ジェンダーとは何か、差別・虐待・性被害	世界の女性問題・ジェンダーについて理解する。		
7回	世界が直面する課題 飢餓、貧困、教育、健康の格差	世界が直面する課題を理解する。		
8回	国際的な疫学 感染症、新興感染症 主な疾病、主要な死因の比較	国際的な保健統計から、国際社会はどのような健康課題を持つかを考察し、意見を共有する。		
9回	国際機関 UN(国連)、WHO、政府開発援助等	国際社会の構造、国際的な機関のはたらきを理解し、国際社会にどのように影響しているかを理解する。		グループ発表
10回	世界が直面する課題への取り組み SDGs ; 開発と持続可能社会について グローバル社会における豊かさ	世界が直面する課題について、どのような取り組みがあるかを知り、自分はどのコミットできるかを考察する。		グループ発表
受講上の注意 個人やグループワークでの調べ学習を中心に進めます。積極的な学習姿勢を望む。			評価方法 授業への参加度、授業中の課題、グループワークでの成果物、最終レポート等によって総合的に評価する。	
使用するeテキスト			使用するテキスト 授業の状況に応じて、必要な資料やプリントを配布する。	
参考となるeテキスト			参考文献 適宜授業の中で紹介する。	

科目No. 23		配当時期	担当者	
疾病の成り立ちと回復の促進 科目名 疾病論Ⅰ 時間割表記名 疾Ⅰ 循環器障害 呼吸障害 運動器障害		2年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	循環器 やぎ たかふみ 八木 崇文 呼吸器 はら ひろし 原 洋 運動器 うえしま けいいちろう 上島 圭一郎	
科目のねらい 疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学び、看護の臨床判断のための基礎となる知識を身につける 授業目標 循環器疾患に見られる主な症状と治療について理解する ＜循環器障害＞ 疾患を診断するための検査と検査結果の読み方について学ぶ ＜呼吸器障害＞ 呼吸器疾患に見られる主な症状と治療について理解する ＜運動器障害＞ 主な運動器疾患や外傷の病態を学び、治療や診断について理解する			DPとの関連	
			人間理解	○
			倫理・関係構築	
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
			授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) ＜循環器障害＞	
回	学習内容	学習成果	備考	
第1回	循環器疾患にみられる症状と症状から考えられる病態	循環器疾患診断に必要な検査		
第2回	循環器疾患の診断と治療	虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症）		
第3回		心不全		
第4回		心筋心膜疾患（心筋症・心筋炎・心膜炎） 弁膜症 不整脈		
第5回		動脈・静脈疾患 高血圧症		
＜呼吸器障害＞				
回	学習内容	学習成果	備考	
第1回	呼吸器症状 ＊呼吸器疾患特有な症状の病態生理を学び、よりよい科学的な看護をめざす	咳嗽・慢性咳嗽、喀痰、血痰、咯血、呼吸の異常、呼吸困難、血液ガス異常と肺疾患		
第2回	呼吸器疾患の診断 ＊検査 ＊胸部の聴診など理学的所見	呼吸器疾患診断に必要な検査を理解する。胸部症状と理学所見の関連を理解して適切な看護を目指す。呼吸器疾患の診断は既往歴、家族歴、職業歴、生活歴、治療歴が重要。胸部聴診所見など理学所見を理解する。		
第3回	呼吸器疾患の主な治療法 ＊薬物療法 ＊放射線療法 ＊外科療法 ＊呼吸理学療法とリハビリテーション	疾患と症状に応じた多彩な呼吸器疾患治療の概略を理解する。患者にとってより良い治療とは関係職種の有機的な協力においてのみ成り立つことを理解する。		
第4回	主な呼吸器疾患各論 ＊呼吸器疾患と胸部外科療法	感染性疾患、換気障害、アレルギー性疾患、腫瘍性疾患等の内で主要な疾患について概略を理解する。外科的治療を要する疾患と呼吸器外科療法の概略を理解する。		
第5回				
＜運動器障害＞				
回	学習内容	学習成果	備考	
第1回	運動器疾患 総論	運動器疾患に対する診断、治療の基本を理解する。		
第2回	運動器疾患 各論 1 外傷	骨折の病態、診断、治療を理解する。		
第3回	運動器疾患 各論 2 運動器リハビリテーション	運動器疾患に対するリハビリテーション診断、治療の基本を理解する。 ロコモティブ・シンドロームやサルパの概念と予防を理解する。		
第4回	運動器疾患 各論 3 関節疾患	変形性関節症・関節リュウマチの病態、診断・治療を理解する。 スポーツ外傷に対する治療を理解する。		
第5回	運動器疾患 各論 4 脊椎・脊髄疾患、骨粗鬆症	脊椎・脊髄疾患の病態、診断・治療を理解する。 骨粗鬆症の病態、診断・治療を理解する。		
受講上の注意 運動器障害：解剖学や運動学、生理学などの知識の確認を行うこと。			評価 筆記試験 循環器障害 35点 呼吸器障害 30点 運動器障害 35点	
使用するeテキスト 循環器 呼吸器 運動器 参考となるeテキスト		使用するテキスト 参考文献 久保俊一 編著 図解 整形外科 第3版 金芳堂 久保俊一 編 リハビリテーション医学・医療 医学書院		

科目No. 24		配当時期	担当者	
科目名	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病論Ⅱ	2年次前期	脳神経 中澤 拓也 五味 正憲	
時間割表記名	疾Ⅱ	単位数 1単位	内分泌 川上 明	
	脳神経障害 内分泌障害 血液・免疫障害	時間数 30時間(15回)	血液・免疫 志村 勇司	
科目のねらい 疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学び、看護の臨床判断のための基礎となる知識を身につける 授業目標 ＜脳神経障害＞ 頻度の高い神経疾患について理解を深める ＜内分泌障害＞ 主要な内分泌障害のメカニズム、病態生理、検査、治療について理解する ＜血液・免疫障害＞ 主要な血液・免疫障害のメカニズム、病態生理、検査、治療について理解する			DPとの関連	
			人間理解	○
			倫理・関係構築	
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
＜脳神経障害＞ 五味：2回 中澤：4回				
回	学習内容		学習成果	
1(五味)	脳血管障害：出血性病変について		くも膜下出血を中心とした頭蓋内出血の病態、症状、治療の理解	
2(中澤)	脳血管障害：閉塞性病変について		脳梗塞についてその分類、病態、症状、治療	
3(中澤)	頭部外傷・水頭症・小児の脳疾患について		頭部外傷、水頭症の病態と管理方法がわかる	
4(中澤)	脳腫瘍・脳感染症について		脳腫瘍・脳感染症の分類、治療とその特徴、分類上の違い	
5(五味)	脊髄・脊椎疾患・末梢神経疾患について		どのような病気があるかを知り、病態・管理を理解する	
6(中澤)	神経内科的疾患		代表的疾患について、その特徴を理解する	
＜内分泌障害＞ 川上：5回				
回	学習内容		学習成果	
第1回	視床下部－下垂体前葉系疾患		下垂体前葉ホルモンの過不足が原因で生じる疾患を理解する	
第2回	下垂体後葉系疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患		下垂体後葉系疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患について理解する	
第3回	副腎疾患、脂質異常症、肥満、尿酸代謝異常症		副甲状腺疾患、副腎疾患について理解する 脂質異常症、肥満、尿酸代謝異常症について理解する	
第4回	膵臓疾患、その他の内分泌疾患		膵臓からのインスリン作用、内分泌疾患について学ぶ	
第5回	糖尿病		糖尿病の病態と治療について理解する	
＜血液・免疫障害＞ 志村：4回				
回	学習内容		学習成果	
第1回	疾患と治療の理解		主要な疾患と治療について理解する	
第2回	造血器腫瘍の概念と分類、治療の基本理念と内容、支持療法		造血器腫瘍の治療について理解する	
第3回	アレルギーのしくみ		代表的なアレルギー疾患について理解する	
第4回	自己免疫疾患		代表的な膠原病と類縁疾患について理解する	
受講上の注意			評価	
脳神経障害：私語は慎む、質問は好きなときに行ってください。 神経解剖の基本的な知識はある程度習得しておく（特に中枢神経系の機能）			筆記試験 脳神経障害 40点 内分泌障害 30点 血液・免疫障害 30点	
使用するeテキスト		使用するテキスト		
脳・神経 内分泌・代謝 血液・造血器 アレルギー・膠原病・感染症				
参考となるeテキスト		参考文献		

科目No. 25		配当時期	担当者
科目名 疾病の成り立ちと回復の促進 疾病論Ⅲ		2年次後期	消化器 腎泌尿器 生殖器 かわかみ よねだ あかざわ あきら きみひこ みほ 川上 米田 赤澤 明 公彦 美保
時間割表記名		単位数	
疾Ⅲ		1単位	
消化器障害 腎・泌尿器障害 生殖器障害		時間数	
		30時間(15回)	
科目のねらい			DPとの関連
疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学び、看護の臨床判断のための基礎となる知識を身につける			人間理解
授業目標			倫理・関係構築
＜消化器障害＞			看護実践
＜腎泌尿器障害＞			協同・課題解決
＜生殖器障害＞			探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
＜消化器障害＞ 7回：川上			
回	学習内容	学習成果	備考
第1回	総論		
第2回	症状および検査		
第3回	食道・胃・大腸の疾患		
第4回	肝臓・胆嚢・膵臓の構造・機能・検査		
第5回	肝臓疾患と治療		
第6回	胆膵疾患と治療		
第7回	腹部外傷		
＜腎・泌尿器障害＞ 5回：米田			
回	学習内容	学習成果	備考
第1回	腎・泌尿器の構造と機能		
第2回	症状とその病態生理		
第3回	検査と治療・処置		
第4回	腎不全、尿路・性器の感染症、尿路結石症		
第5回	尿路・性器の腫瘍		
＜生殖器障害＞ 3回：			
回	学習内容	学習成果	備考
第1回	女性のホルモン動態と健康への影響 月経異常，更年期障害，性器脱		
第2回	現代女性に多い疾患 子宮筋腫，子宮内膜症，骨盤腹膜炎		
第3回	女性と悪性腫瘍 子宮頸癌，子宮体癌，悪性卵巣腫瘍		
受講上の注意			評価
			筆記試験
			消化器障害 50点
			腎泌尿器障害 30点
			生殖器障害 20点
使用するeテキスト		使用するテキスト	
消化器			
腎・泌尿器			
女性生殖器			
参考となるeテキスト		参考文献	

科目No. 26		配当時期	担当者
科目名 疾病の成り立ちと回復の促進 疾病論Ⅳ		2年次後期	眼 横井 桂子 耳鼻咽喉 小畑 俊男 口腔 渡邊 朋子 皮膚 川西 康之 精神病理 ストレス
時間割表記名 疾Ⅳ 感覚器障害 眼 耳鼻咽喉 口腔 皮膚 疾Ⅳ 精神病理 疾Ⅳ ストレス		単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	
科目のねらい 疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学び、看護の臨床判断のための基礎となる知識を身につける		DPとの関連	
授業目標 主な感覚器障害のメカニズム、病態生理、検査、治療について理解する 精神病理の目標		人間理解	○
		倫理・関係構築	
		看護実践	
		協同・課題解決	
		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
<感覚器障害> 5回 担当:(眼)横井・(耳鼻咽喉・口腔)小畑・(皮膚)渡邊			
回	学習内容	方法	学習成果
第1回	(眼) 視覚障害の病態と診断・治療	講義	主な眼疾患についての病態と診断・治療を理解する
第2回		講義	(近視・遠視・結膜炎・角膜炎・白内障・緑内障・網膜剥離・網膜症)
第3回	(耳鼻咽喉・口腔) 耳および鼻の構造と機能 口腔と唾液腺の構造と機能	講義	
第4回	耳および鼻にあらわれる症状と病態生理 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理	講義	
第5回	(皮膚) 皮膚の疾患と症状と病態生理	講義	主な皮膚疾患についての病態と診断・治療の理解
<精神病理> 6回: 川西			
回	学習内容	方法	学習成果
第1回	統合失調症について	講義	統合失調症の主な症状、治療について理解できる
第2回	気分症について	講義	気分症の分類、主な症状、治療について理解できる
第3回	パニック症・強迫症・PTSDについて	講義	パニック症・強迫症・PTSDの主な症状、治療について理解できる
第4回	物質使用症・アルコール依存症について	講義	物質使用症・アルコール依存症の主な症状、治療について理解できる
第5回	パーソナリティ症について	講義	パーソナリティ症の主な症状、治療について理解できる
第6回	食行動症・摂食症について	講義	食行動症・摂食症の主な症状、治療について理解できる
<ストレス> 4回: 川西			
回	学習内容	方法	学習成果
第1回	ストレス、ストレス反応、ストレス対処について	講義	ストレス、ストレス反応、ストレス対処について理解できる
第2回	マインドフルネスについて	講義	マインドフルネスについて理解できる
第3回	退行催眠研究、臨死体験研究について	講義	退行催眠研究、臨死体験研究について理解できる
第4回	総合的ストレス対処について	講義	総合的ストレス対処について理解できる
受講上の注意		評価方法 筆記試験 感覚器障害 30点 (眼・耳鼻咽喉口腔・皮膚/各10点) 精神病理 40点 ストレス 30点	
使用するeテキスト 感覚器障害: 眼 / 耳鼻咽喉 / 歯・口腔 / 皮膚 精神病理・ストレス: 精神看護の基礎		使用するテキスト 参考文献	
参考となるeテキスト			

科目No. 27		配当時期		担当者	
疾病の成り立ちと回復の促進		2年次前期			
科目名 臨床検査		単位数		いずみだ ひろし	
時間割表記名		1単位		泉田 洋志	
臨床検査		時間数		ほか	
		20時間(10回)			
科目のねらい 診断に必要な検査とその結果の読み取りについて学ぶ				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	
				協同・課題解決	
				探究・成長	
授業目標					
主な臨床検査項目の検査目的と意義を知り、患者に検査前説明ができることを目標にする					
血糖検査、血液検査、尿検査、輸血検査を模擬体験し理解を深める					
心電図検査を実体験し理解を深める					
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	形態	担当者	内容	
1	一般検査	講義	篠田		
2	血液検査	講義	泉田		
3	生化学検査	講義	篠田		
4	輸血検査	講義	林		
5	微生物検査	講義	藤田		
6	検体検査実習	* 実習	泉田	血糖、血液型、血液検査、尿検査	
7			泉田		
8	生理機能検査	講義	小西		
9	生理機能検査	* 実習	泉田	1 2 誘導心電図、モニター心電図	
10			泉田		
受講上の注意				評価方法	
実習は京都保健衛生専門学校(京都市上京区)で行います				筆記試験	
注意事項については事前に指示します				実習レポート	
生化学、解剖生理、腎・泌尿器、循環器、呼吸器、内分泌・代謝、血液・造血器について					
事前に振り返っておくこと					
使用するeテキスト		使用するテキスト			
臨床検査					
参考となるeテキスト		参考文献			

科目No. 28		配当時期	担当者
科目名	疾病の成り立ちと回復の促進 治療論 I	2年次前期	リハビリテーション 新井 祐志 なかがわ しゅうじ
時間割表記名	治 I	単位数 1単位	放射線 中川 周士 とどろき ひでひこ
	リハビリテーション 放射線 透析	時間数 20時間(10回)	透析 轟 英彦 なかむら さとあき 中村 聡明 おかざき てつや 岡崎 哲也
科目のねらい 特徴的な治療の意義や内容などを理解する。		DPとの関連	
授業目標		人間理解	
1. 疾患別・病期別のリハビリテーションの目的・評価。訓練方法を理解する。		倫理・関係構築	
2. 放射線の管理、防護、障害について理解する。		看護実践	○
3. 透析療法とはどのようなものか、透析の原理を理解する。		協同・課題解決	○
		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	新井	リハビリテーションの定義と理念・障害の分類と構造	障害者モデルとその相互作用、チームアプローチの重要性を理解する。
2回		リハビリテーション評価・訓練概論	リハビリテーションの基本的評価法と訓練法を理解する。
3回	中川	疾患別リハビリテーションのアプローチ①	運動器疾患リハビリテーションアプローチを理解する。
4回		疾患別リハビリテーションのアプローチ②	脳血管疾患のリハビリテーションアプローチを理解する。
5回	新井	疾患別リハビリテーションのアプローチ③	循環器疾患・呼吸器疾患のリハビリテーションアプローチを理解する。
6回	轟	放射線について 撮影機器と検査について 造影剤の副作用について	放射線の管理、防護、障害を理解する。 X線単純写真について、基本的な見方を理解する。 MRI、US、DSA、造影剤の影響を理解する。
7回	中村	放射線治療総論 放射線とは、放射線治療の方法	放射線治療の特徴・対象・有害事象を理解し、がん看護にどう活かすか、考えることができる。
8回		放射線治療各論 頭頸部・胸部の放射線治療 腹部・骨盤の放射線治療	各放射線療法の特徴を理解する。
9回 10回	岡崎	透析療法 透析と腎臓のはたらき 血液透析と腹膜透析	透析療法とはどのようなものか、透析の原理を理解する。
受講上の注意			
リハビリテーション：学習者として主体的に学んでください。 放射線：わからないことはいつでも質問してください。		評価 筆記試験 リハビリテーション 50点 放射線 30点 透析 20点	
使用するeテキスト 放射線： 臨床放射線医学（医学書院）		使用するテキスト リハビリテーション： リハビリテーション医学・医療コアテキスト（日本リハビリテーション医学教育推進機構）	
参考となるeテキスト		参考文献 実践入門！ 一目でわかるリハビリテーションチーム医療（診断と治療社）	

科目No. 29		配当時期	担当者
疾病の成り立ちと回復の促進 科目名 治療論Ⅱ 時間割表記名 治Ⅱ ME機器 化学療法・疼痛管理		2年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	ME機器 にしむら かずし 西村 和司 化学療法 すみた えみこ 角田 恵美子 疼痛管理
科目のねらい 特徴的な治療と治療として、ME機器、化学療法・疼痛管理の意義と実際を理解する		DPとの関連	
授業目標 1. ME機器を安全に使用するための基礎知識を習得する (使用目的・効果、正常動作と異常発生時の対応) 2. 化学療法・疼痛管理の実際を理解する		人間理解	
		倫理・関係構築	
		看護実践	○
		協同・課題解決	○
		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	医療におけるME機器とは 治療用ME機器の概要	ME機器には、どのようなものがあるか、主な機器とその使用目的を理解する	
2回	循環機能を支えるためのME機器	心電図モニター・ペースメーカー・人工心肺装置・補助循環の使用目的と安全な使用方法を理解する	
3回	呼吸機能を支えるためのME機器	パルスオキシメータ・酸素ボンベ・人工呼吸器の使用目的と安全な使用方法を理解する	
4回			
5回	患者のケアに必要なその他のME機器	医療ガス・輸液ポンプ・輸注ポンプの使用目的と安全な使用方法を理解する	
6回	がん化学療法の対象 化学療法の種類 外来化学療法、入院による化学療法	がん化学療法の適応、化学療法がどのように行われるかを理解する	
7回	がん化学療法の実際 レジメン管理、治療計画の理解 副作用と緊急症、安全の確保	がん化学療法の方法、実施における問題を知り、安全の確保・対応を理解する	
8回	疼痛の理解 疼痛のメカニズムと評価	疼痛のメカニズムと評価方法を理解する	
9回	疼痛の緩和 WHO方式がん疼痛治療法	WHO方式3段階除痛ラダーと主な薬剤、作用・副反応を理解する	
10回	まとめ 化学療法、症状緩和を受けている人の理解	テーマについて発表し、理解を深める	ワークと発表
受講上の注意		評価方法 筆記試験・課題 ME機器 50点 化学療法・疼痛管理 50点	
使用するeテキスト 化学療法・疼痛管理：がん看護学		使用するテキスト ME機器：ナースのためのME機器マニュアル（医学書院）	
参考となるeテキスト		参考文献	

科目No. 32		配当時期	担当者
科目名	健康支援と社会保障制度 社会福祉の現状と課題	2年次後期 単位数	
		1単位	おかもと よしなり 岡本 芳也
時間割表記名	社会福祉の現状と課題	時間数	
		30時間(15回)	
科目のねらい			DPとの関連
経済的困窮者や社会的弱者の権利を擁護する在り方、考え方を学び、社会の基盤や構造について考える。			
授業目標			人間理解 ○
社会福祉とは、何らかの理由で生活が成り立たなくなった時にその人の生活を支える社会的な営みである。個人の生活が成り立たなくなる理由は、社会の構造的な問題が個人にふりかかることによって引き起こされることが多く、それを「自己責任」として片付けることはできない。誰もが社会福祉を利用する可能性があることを理解した上で、医療・保健と連携する専門職実践としての社会福祉について、理念、制度的な枠組み、歴史的背景、社会福祉専門職の理解などを中心に総合的に学ぶ。			倫理・関係構築
			看護実践
			協同・課題解決 ○
			探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
1. 社会福祉(社会保障)とは何か(基本的な枠組みの理解) 2. 社会福祉の理念(基本的人権、ノーマライゼーション等を中心に) 3. 社会福祉の歴史①(近代社会福祉実践誕生の背景) 4. 社会福祉の歴史②(日本における社会福祉制度の変遷) 5. 社会福祉の歴史③(社会福祉基礎構造改革等) 6. 社会保障制度の枠組み(法律体制、措置制度等) 7. 日本の社会福祉制度①(生活保護、高齢者福祉) 8. 日本の社会福祉制度②(児童福祉、障害者福祉) 9. 日本の社会福祉制度③(地域福祉、その他) 10. 社会福祉専門職の理解①(資格制度と専門性) 11. 社会福祉専門職の理解②(専門技術、原則) 12. 社会福祉問題の現状と課題①(社会保障全般、財政) 13. 社会福祉問題の現状と課題②(生活保護、高齢者福祉) 14. 社会福祉問題の現状と課題③(児童福祉、障害者福祉、その他) 15. まとめ			
受講上の注意			評価方法
板書をただノートにとるだけでなく、口頭説明の要点や疑問点なども加えた上で、自分で創意工夫しながら、ノートを作成すること。制度だけではなく、理念、歴史的な側面における学習も、常に現在の社会状況や社会福祉問題と関連づけながら学習すること。また、そのために現在の状況に関する知識も日常的に得るようにすること。事前・事後に指示されたテキストの箇所を中心に読み込み、ポイント、疑問点などをまとめる形で予習・復習を行うことも望ましい。配布する資料についても講義とリンクさせながら読み込みを行い、理解を図ること。			テスト(60%) 平常点(40%) 平常点は授業中の取り組み態度、積極性などを中心に評価する。 出席することは当然のことであるので、特に加減しない。
使用するeテキスト		使用するテキスト	
ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③			
社会福祉と社会保障(メディカ出版)			
参考となるeテキスト		参考文献	
社会福祉・社会保障		適宜授業内で紹介する。	

科目No. 34		配当時期		担当者		
科目名	健康支援と社会保障制度 公衆衛生学	2年次全期		たけちに ちづよ 竹谷 千津代		
		単位数				
		1単位				
時間割表記名	公衆衛生学	時間数				
		20時間(10回)				
事前学習内容				DPとの関連		
公衆衛生は日々の暮らしと大きくかかわっている。政治・経済をはじめ生命や健康に関する動向を、新聞・マスメディアなどから情報を読みとり考える力をつける。また、テキスト・国民衛生の動向や書籍から理解を深めておく。						
科目全体のねらい・授業目標						
公衆衛生とは公(国)が衆(みんな)の生(生命・生活・生産)を衛(まもる)ことである。みんなの生を衛(まもる)ために組織的な取り組みが公衆衛生活動であり、日々の生活と密接な関係にあること、地域活動であることを理解する。公衆衛生の理念や幅広い学問体系から学び、広い視野で自分の立つ地域社会、国、世界の人々の健康について考える力を養う。また、さまざまな健康支援のありかたを学び、健康の保持・増進・疾病予防について理解する。						
人間理解						○
倫理・関係構築						○
				看護実践		
				協同・課題解決		
				探究・成長		
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)						
第 1回 はじめにーいのちと公衆衛生ー						
第 2回 公衆衛生の理念ー健康と人権ー 1 健康とは 2 人権とは 3 プライマリーヘルスケア 4 ヘルスプロモーション						
第 3回 公衆衛生の基礎ー公衆衛生のしくみと地域保健ー 1 政策 2 国と地方自治体 3 専門職 4 住民等との協働						
第 4回 公衆衛生の基礎ー疫学と保健統計ー						
第 5回 社会保障制度及び医療制度・介護保険制度						
第 6回 グローバル化する世界と公衆衛生ー国際保健ー						
第 7回 環境と健康Ⅰ 1 環境とは 2 地球規模の環境						
第 8回 環境と健康Ⅱ 1 身の回りの環境 2 住まいの環境						
第 9回 感染症の動向と感染症対策						
第10回 社会の背景と母子保健 社会の背景と成人保健・老人(高齢者)保健 社会の背景と精神保健・難病保健・障害者保健 社会の背景と歯科保健・学校保健 社会の背景と産業保健・健康危機管理・災害保健 公衆衛生のまとめ						
受講上の注意					評価方法	
予習：テキスト及び国民衛生の動向の該当する箇所を読んで授業に臨む。 復習：配布資料・テキスト・国民衛生の動向・紹介書籍等により学習を深める。					筆記試験 100点	
使用するeテキスト			使用するテキスト			
公衆衛生			「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 ※1年次に購入したものを使用 「公衆衛生がみえる」メディックメディア ※1年次に購入したものを使用			
参考となるeテキスト			参考文献			

科目No. 35		配当時期		担当者	
科目名	健康支援と社会保障制度 医療と倫理	単位数	2年次全期	あおき あつひで 青木 淳英	
時間割表記名	医療と倫理	時間数	1 単位		
			20時間（10回）		
事前学習内容 新聞やニュース、ドキュメンタリーなどを通じて、普段から医療や福祉、介護の問題に関心を持って授業に臨むこと。なお、公衆衛生学、地域看護学、在宅看護学、保健医療福祉論は関連性がある。				DPとの関連	
科目全体のねらい・授業目標 「医療と倫理」の授業の目的は、(1)医療従事者として、専門職の視点で「倫理問題」を考える、(2)患者・当事者が抱えている問題について理解を深める、の2点である。授業を通して、(1)医療従事者として直面するであろう「倫理問題」について広く関心を持ち、多角的な視点から考えることができる、(2)自分の意見を持ち、論理的に表明することができる、という力量の獲得・向上を目指す。				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
第1回 オリエンテーション／少子高齢社会・人口減少社会の到来 ＜授業目標＞ 少子高齢社会・人口減少社会の到来とその影響について理解する。					
第2回 治療法開発における光と影 － ロボトミー ＜授業目標＞ ロボトミーを題材に、治療法開発における医療従事者の倫理について考察する。					
第3回 病児・障害児 － 子どもホスピス ＜授業目標＞ 重い病気や障害を抱えた子どもやその家族への支援を考察する。					
第4回 障害者迫害 － 優生思想と向き合う ＜授業目標＞ 優生思想に向き合い、「命の価値」について考察する。					
第5回 難病 － 命をめぐる対話 ＜授業目標＞ 「閉じ込め症候群」の患者とどう向き合うか、「いのちとは何か」を考える。					
第6回 パンデミック（１） － 医療従事者が直面する課題 ＜授業目標＞ パンデミック下における医療従事者の対応を再確認し、議論する。					
第7回 パンデミック（２） － 患者・家族への対応 ＜授業目標＞ パンデミック下における患者・家族の思いを踏まえた対応について考え、議論する。					
第8回 ダイバーシティ － 医療現場での課題 ＜授業目標＞ 「多様性」を踏まえた医療現場での課題について考え、議論する。					
第9回 看護×人工知能（ＡＩ） ＜授業目標＞ 「AIやICTによって看護師の仕事はどう変わるのか」「看護の本質とは何か」を考え、議論する。					
第10回 貧困 － メディカル・プア ＜授業目標＞ 個人の経済力が健康格差を生んでいる状況について考察する。					
※授業進度に応じて、内容を変更することがある。					
受講上の注意 授業は資料・視聴教材を題材として、講義・演習（個人ワーク、グループワークなど）形式で進めていく。各自が授業テーマについて深く考え、グループにおいても活発に議論するなど、授業に積極的に参加してほしい。				評価方法 筆記試験、受講態度、事前・事後課題で評価する。	
使用するeテキスト		使用するテキスト テキストは使用しない。毎回配布する資料等をもとに授業を行う。			
参考となるeテキスト 看護倫理		参考文献			

科目No. 36		配当時期 2年次全期		担当者	
科目名 健康支援と社会保障制度 家族支援総論		単位数 1単位		おの みゆき 小野 美雪	
時間割表記名 家族支援総論		時間数 20時間(10回)			
科目のねらい 家族全体を看護の対象としてとらえ、家族支援の視点を深める 授業目標 家族の機能に対する理解を深める 家族支援の必要性和方法を学ぶ				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		備考	
1回	家族の構造と機能	家族の構造と機能がわかる			
2回	家族システム理論と看護 家族アセスメント	家族システム理論がわかる 家族のアセスメント方法が分かる			
3回	家族支援に必要な情報と情報収集の 視点	家族支援に必要な情報がわかる			
4回	事例演習①	家族支援に必要な情報からアセスメントできる			
5回		家族看護における看護職の役割がわかる 家族への援助姿勢がわかる			
6回	事例演習	支援が必要な人をもつ家族を理解できる －事例をもとに、家族を理解できる－			
7回	事例演習②	事例に対する家族アセスメントを行い、支援が考えられる			
8回					
9回	発表・まとめ	家族の機能に対する理解を深め、家族支援の必要性和方法を説明できる			
10回					
受講上の注意 出席して考える授業です。休まず出席してください。				評価方法 演習課題 小テスト 演習参加度 により 総合的に評価	
使用するeテキスト 家族看護学		テキスト			
参考となるeテキスト		参考文献			

科目No. 37		配当時期 2年次前期	担当者 ほり ゆうすけ 堀 祐輔
科目名 家族支援と社会保障制度 保健医療福祉行政論Ⅰ	単位数 1単位	時間数 20時間(10回)	
時間割表記名 保健医療福祉行政論Ⅰ			
科目のねらい 保健医療福祉の基盤となる根拠法や公衆衛生の定義を理解し、保健・医療・福祉政策を相互に関連付けて理解する。		DPとの関連	
授業目標 1. 保健医療福祉制度の変遷とその歴史的背景を学ぶ 2. 保健医療福祉行政の仕組みを理解する 3. 社会保障制度の仕組みの概略を理解する		人間理解	
		倫理・関係構築	○
		看護実践	
		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	方法	学習成果
1	保健医療福祉行政の目指すもの		健康の定義と文化的な生活とは何を指すかを自分の言葉で説明できる
2	保健医療福祉制度の変遷①		公衆衛生政策の基盤と発展過程を理解する
3	保健医療福祉制度の変遷②		社会的背景の変化と保健医療福祉制度の変遷について理解する
4	行政の仕組みと役割		行政の仕組みと、行政における保健行政の果たす役割について理解する
5	保健医療福祉の財政		予算の区分と予算編成について学び、行政の財政に関心を持つ
6	社会保障制度の理念と仕組み		社会保障の法規と行政体系を理解する
7	医療制度と介護保険制度		医療保障のしくみや介護保険制度の仕組みを知る
8	社会保障・社会福祉の制度		年金制度、雇用保険と労働災害補償保険制度、公的扶助など 社会保障と社会福祉
9 10	調べ学習と発表		興味関心を持って調べたことをまとめて発表できる
受講上の注意 健康な地域づくりのためには、地域住民の協力と行政のしくみがうまく機能する必要があります。 この科目では、保健医療福祉の制度が社会情勢の変化によって変わってきたことを理解し、 現状と課題に目を向けて制度を変えていく力を身に付けてほしいです。		評価方法 授業への参加、演習のとりくみ 課題レポート 学科試験	
使用するeテキスト 標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論		使用するテキスト 参考文献	
参考となるeテキスト			

科目No. 41		配当時期	担当者	
科目名	健康現象の疫学と統計 保健統計Ⅱ	2年次前期 単位数 1単位	河崎 哲嗣(7回)	
時間割表記名	保健統計Ⅱ	時間数 30時間(15回)	詫摩 京未(8回)	
科目のねらい 疫学や保健・医療で必要とする統計処理に関わる基本的な数学的な内容を理解し、分析を通して看護実践において的確な思考力・判断力・表現力を養う。			DPとの関連	
授業目標 1. 保健・医療で必要とするデータの種類と収集について学ぶ。 2. 記述統計を用いてデータの整理と視覚化をすることができる。 3. データを分析するために推測統計を用いることができる。 4. データ分析を通して看護実践に役立つ判断力を身に付ける			人間理解	
			倫理・関係構築	
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
	担当	学習内容	学習成果	備考
1回	河崎	データの活用場面の実際	ドットプロット図をベースにして、度数分布表とヒストグラムを用いて集団を捉えることができる。	
2回		データの代表値と散らばりと歪み	統計量で集団を捉えることができる(平均値・中央値・最頻値、分散・標準偏差・歪度)	
3回		データの視覚化(表・図から集団の特性を読み解く)	統計量と表・図・グラフの両面から集団を捉えることができる(標準偏差・四分位範囲・四分位数・箱ひげ図)	
4回		視覚化資料の活用(表・グラフ・図を有効的に表現する仕組み)	基本的な統計に用いる表・図・グラフと統計量を用いて、集団の実態を表現することができる	
5回		2つのグループのデータを視覚化して比較する	2次元のドットプロット図(相関図・散布図)と2次元の度数分布表(クロス集計表)で視覚化して、2つのグループ間の傾向を捉えることができる	
6回		2つの変量(データ)の関係	統計量(相関係数や2次元の相対度数)を用いて、2つのグループ間の傾向を捉えることができる	
7回～8回	詫摩	これまでのまとめと確認小テスト 記述統計の復習と演習	学習した視覚化資料と統計量を駆使して、日常現象や看護実践での場面に活用することができる	
9回		標本サンプルから全体(母集団)の実態を捉える	無作為抽出による確率度数分布(二項分布)を基に、確率密度関数(正規分布)の仕組みを標準正規分布表を用いて理解することができる	
10回		母平均や母比率の区間推定	標本の平均や比率から、母集団の平均や比率がどのあたりにあるのかを推定することができる	
11回～13回		色々な検定	陽性陰性の判定と過誤の関係から、仮説検定の考え方を理解することができる。2つのグループの集計表における相対度数の差ズレ(X ² 検定)、平均と分散の統計量の差(t検定等)についての判断をすることができる	
14回～15回		推測統計の復習と演習	学習した統計量を整理・検定を行い、日常現象や看護実践での課題解決に生かすことができる。また場合によっては、他の統計解析の手法に取り組むことができる	
受講上の注意 受講生の学力実態によって内容や進度を組み替えることがあります。 患者やその家族のお気持ちを感じ取る姿勢としてマナーを大切にしてください。 通信機能が付いていない/ボタンのある電卓を必ず準備してください。			評価方法 授業への参加状況・態度、演習のとりくみ 課題プリントやレポートの提出 学科試験	
使用するeテキスト		使用するテキスト プリント学習が中心		
参考となるeテキスト		参考文献 山田寛「医療・看護のためのやさしい統計学」東京図書		

科目No. 48		配当時期 2年次前期	担当者	
科目名 基礎看護学 共通基本技術Ⅳ	単位数 1単位		1～9回 いげにし しづえ 池西 静江 10回 嘉田 真希	
時間割表記名 共通技Ⅳ アセスメント・看護診断過程	時間数 20時間(10回)			
科目のねらい 対象の看護上の問題を科学的に明らかにする技術を学ぶ			DPとの関連	
授業目標				
1. 看護過程・臨床判断の基礎的理論（問題解決・意思決定・クリティカルシンキング）について理解する。				
2. 看護過程の構成要素を理解するとともに、臨床判断について理解する。				
3. 情報収集、アセスメントの枠組みとしてのゴードンの機能的健康パターンの考え方を理解する。				
4. アセスメントの思考過程がわかり、パターンごとの推論を導く過程を理解する。				
5. アセスメントの結果を俯瞰し、対象の全体像を把握することができる。			人間理解	
			倫理・関係構築	
			看護実践	○
			協同・課題解決	○
			探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1回	科目ガイダンス 科目の目標、進め方、評価 看護過程・臨床判断とは何か	1. 科目の学習方法と学習上の留意点が理解できる。 2. 看護過程と臨床判断の考え方が理解できる。	講義・演習	
2回	看護過程・臨床判断の基礎となる理論 問題解決思考・意思決定理論 クリティカルシンキング	1. 看護過程・臨床判断に共通する考え方（基礎的理論）が理解できる。	講義・演習 ポストテスト①	
3回	看護が扱う問題と看護診断 人間の反応とは 看護診断の種類と共同問題の考え方	1. 看護が扱う問題と看護診断の概念が理解できる。 2. 共同問題とは何かが理解できる。	講義・演習 ポストテスト②	
4回	情報収集 1 アセスメントの枠組み ゴードンの機能的健康パターン	1. アセスメントの枠組みとしてのゴードンの機能的健康パターンと情報収集の方法が理解できる。	講義・演習 ポストテスト③	
5回	情報収集 2 情報収集の実際 情報源 情報収集の方法	1. 事例の情報を収集する。	講義・演習	
6回	情報整理 ゴードンの機能的健康パターンに沿って情報整理	1. ゴードンの機能的健康パターンに沿って収集した情報をアセスメントしやすいように整理する。	講義・演習	
7回	アセスメント 1 アセスメントの思考過程 ①健康知覚－健康管理パターン ②栄養－代謝 ③排泄パターン ④活動－運動 ⑤睡眠－休息	1. アセスメントの思考過程が理解できる。 2. ゴードンの機能的健康パターンの①健康知覚・健康管理のパターンの情報とアセスメントの考え方が理解できる。	講義・GW	
8回	⑥認知－知覚 ⑦自己知覚－自己概念 ⑧役割－関係 ⑨セクシュアリティ－生殖 ⑩コーピングストレス耐性 ⑪価値－信念パターン パターン②から⑪はグループで取り組もう	1. ゴードンの機能的健康パターンの②栄養－代謝、③排泄、④活動－運動、⑤睡眠－休息、⑥認知－知覚、⑦自己知覚－自己概念、⑧役割－関係、⑨セクシュアリティ－生殖パターン、⑩ストレスコーピング耐性、⑪価値－信念パターンの情報とアセスメントの考え方が理解できる。	GW	
9回	アセスメント 2 パターンごとのアセスメントと推定問題・強みの抽出	1. ゴードンの機能的健康パターンの情報とアセスメントの考え方が理解できる。 2. アセスメントの結果を俯瞰することができる。	講義・GW	
10回	看護問題の明確化	1. 全体像を俯瞰する方法として関連図の考え方が理解できる。 2. 看護問題を明確にすることができる。	講義・演習	
受講上の注意 まず、休まず受講してください。主体的に課題に取り組み、看護の思考のプロセスをしっかり習得してください。これからの臨地実習で大いに活用します。			評価方法 ポストテスト1回5点×3 課題（6～10回の成果物）35点 筆記試験 50点	
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅰ 看護診断ハンドブック 第12版（医学書院） 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社）			使用するテキスト 参考文献	
参考となるeテキスト			参考文献	

科目No. 49		配当時期 2年次全期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	担当者 1～ 3回 嘉田 真希 4～10回 川崎 紀子
科目名 基礎看護学 共通基本技術V 時間割表記名 共通技V 看護過程			
科目のねらい 対象の看護上の問題を計画的に解決し、評価する技術を学ぶ。			DPとの関連
授業目標 1. 看護上の問題とは何か、看護上の問題をどのように表現するかを理解する。 2. 看護上の問題を解決するための看護計画の考え方を理解する。 3. 看護計画に基づいて、計画を実施・評価する方法を理解する。			人間理解 ○ 倫理・関係構築 看護実践 ○ 協同・課題解決 ○ 探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	全体像把握と看護診断① 関連図の作成 看護診断の確定	全体像を俯瞰する方法として関連図が記載できる	講義 ワーク
2回	全体像把握と看護診断② 優先順位の確定 全体像の正文化	事例の看護診断に取り組み、優先順位を決定できる 全体像を正文化して、看護診断を明確にすることができる	講義 ワーク
3回	全体像把握と看護診断③ 看護診断の構成要素 ND、DC診断指標、R関連因子、RF危険因子	アセスメントの最終段階として看護診断をすること、看護診断の構成要素を理解する	講義 ワーク
4回	看護計画① 目標と看護成果、具体的指標	目標、看護成果、具体的指標とは何かを理解し、実際に目標・看護成果を考え、討議・決定できる	講義 ワーク
5回	看護計画② OP・CP・EP	OP・CP・EPとは何か、OP・CP・EPとDC・R・RFの関連を理解できる	講義 ワーク
6回	看護計画③ 看護計画立案	事例の看護計画を根拠を含めて考え、検討・決定できる	講義 ワーク
7回	実施	計画した看護計画を実施できる	3F実習室 演習
8回	実施		
9回	評価	評価とは何かを理解し、各自実施した計画を評価し、チームで意見交換する	講義 ワーク
10回	Summary 看護過程全体のふりかえり	Summaryの目的・構成要素を理解し、看護過程全体のサマリーを作成できる	講義 ワーク
受講上の注意 専門職としての看護の思考過程の習得を目指します。これからの領域別実習や職業人となった時に、より必要とされる思考過程です。しっかり、その基礎作りをしましょう。		評価方法 課題レポート 70点（嘉田35点・川崎35点） 筆記試験 30点（嘉田15点・川崎15点）	
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護診断ハンドブック（医学書院） 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（照林社）		使用するテキスト 参考文献	

科目No. 54		配当時期 2年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者 森 広美
科目名 基礎看護学 診断・治療に伴う技術Ⅱ 時間割表記名 診治技Ⅱ 与薬 診治技Ⅱ 診察・検査		事前学習内容 臨床薬理・臨床検査・感染予防で学習したことを復習しておきましょう。 科目のねらい 与薬・診察・検査における基礎知識を理解し、安全、安楽で正確な技術を修得できる	
		DPとの関連	
		人間理解	
		倫理・関係構築	○
		看護実践	○
		協同・問題解決	○
		探求・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール:回数・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
【与薬】24時間(12回)【診察・検査】6時間(3回)			
回数	学習目標	学習内容	方法
第1回	与薬の意義が理解できる 与薬の基礎知識が理解できる	①与薬の目的 ②薬物に関する法律 ③薬物の表記と管理 ④薬剤の吸収・分布・代謝・排泄 ⑤薬剤の作用に影響を与える要因	講義
第2回	与薬法の種類と吸収の機序・留意点が理解できる 与薬における看護師の役割が理解できる	①与薬法の種類(経口・口腔・点眼・点鼻・点耳・吸入・塗布・貼付法 等) ②注射法(皮内・皮下・筋肉・静脈注射など) 針刺し防止・事故後の対応 ③与薬における患者の安全管理 ※カウンターパートセッションのグループ決め	講義
第3回	注射法の種類と物品の取り扱いを理解し準備ができる	①注射法に使用する物品と取扱い ②注射の準備	講義 実習室
第4回	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いができる	①輸液ルートの取り扱い ②輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い方法 ③輸液ルートの機械へのセッティング、患者への投与方法	講義 演習 (小テスト)
第5回	カウンターパートの学習ができる (手順書の作成)	①皮下注射 ②筋肉注射 ③点滴静脈注射(側管注射を含む) ④採血	カウンターパート (教室) (パソコン室)
第6回			
第7回	カウンターパートの学習ができる (実践練習)	①各グループに分かれて教員のデモンストレーション見学後、自分達で作成した手順書に沿って実施練習する	カウンターパート 実習室
第8回			
第9回	皮下注射が上腕外側伸展部モデルにできる	①皮下注射のデモンストレーション ②皮下注射の準備と実施	ジグソー 実習室
第10回	筋肉注射が三角筋モデルにできる	①筋肉注射のデモンストレーション ②筋肉注射の準備と実施	ジグソー 実習室
第11・12回	点滴静脈内注射の準備と管理ができる	①点滴静脈注射のデモンストレーション ②点滴静脈注射の準備と実施・管理	ジグソー 実習室
第13回	モデル人形に安全・安楽、正確な静脈血採血が実施できる	①採血準備の実施 ②血管選定の実施 ③穿刺・後片付けの実施	ジグソー 実習室
第14回	診察の定義・診察における看護の役割が理解できる 検査の意義と看護の役割が理解できる 検査の種類がわかる	診察の定義 構成要素 検査の意義 看護師の役割 X線検査、CT、MRI、内視鏡検査、エコー検査、 穿刺(胸腔穿刺・腹腔穿刺)	講義 演習
第15回	検体検査、生体情報のモニタリングが理解できる	検体検査 血糖測定 生体情報のモニタリング(動脈圧、中心静脈圧、肺動脈圧)	講義
受講上の注意 薬理学の復習をしておいてください。 診察・検査・与薬の援助技術は、患者に侵襲を与えたとともに生命に直結する技術です。 また、感染予防の視点が重要です。確実な技術が修得できるように真摯に取り組んでください。		評価方法 筆記試験：60点(小テスト10点) 課題提出：40点	
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅱ		使用するテキスト	
参考となるeテキスト 看護がみえるvol.1 基礎看護技術(メディックメディア) 看護がみえるvol.2 臨床看護技術(メディックメディア)		参考文献	

科目No. 56		配当時期 2年次全期	担当者 やまもと 山本 かおり 4回 つだ 津田 佳子 1回 えもり 江守 ようこ 3回 上山 みゆき 7回
科目名地域・在宅看護論 地域・在宅看護活動論Ⅰ		単位数 1単位	
時間割表記名 地域・在宅看護活動論Ⅰ		時間数 30時間(15回)	
科目のねらい 生活の場における日常生活支援と医療・治療処置的技術の看護について理解し、継続支援について学ぶ			DPとの関連
授業目標 1. 在宅療養が必要な対象の医療ケアと生活ケアが理解できる 2. 在宅での医療処置が必要な対象の看護について理解できる			人間理解 倫理・関係構築 ○ 看護実践 ○ 協同・課題解決 ○ 探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回目	在宅看護の展開 －在宅で求められる技術の応用－	在宅看護（訪問看護活動）展開の特徴と生活行為への支援が理解できる。	講義
2回目	在宅医療技術に伴う訪問看護活動 日常生活支援と家族支援	訪問看護ステーションのしくみと訪問看護活動の実際 在宅におけるコミュニケーション技術の基本	講義
3回目 4回目 5回目	生活の場における日常生活援助技術 の工夫	対象の療養環境、健康状態に応じた日常生活援助技術の実際と工夫について学ぶ	演習
6回目	在宅での服薬支援 腹膜透析	腹膜透析が必要な在宅療養の特徴を理解し、管理方法、留意点と対象への支援について理解できる	講義 (津田)
7回目	在宅医療技術 膀胱留置カテーテル	自然排尿が困難な場合や尿失禁等の排泄ケアが必要な在宅療養の生活支援の実際と看護の役割が理解できる。	講義 (江守)
8回目	在宅医療技術 ストーマ	在宅でのストーマ管理を必要とする療養者と家族の生活支援、社会資源活用の実践を学ぶ。	講義 (江守)
9回目	在宅医療技術 在宅酸素療法	在宅酸素療法（HOT）の適応と在宅看護の実際について理解できる。	講義 (山本)
10回目	在宅医療技術 在宅人工呼吸療法	在宅人工呼吸療法の適応と訪問看護の実際について理解できる。	講義 (山本)
11回目	在宅医療技術 経管栄養	経管栄養の種類と適応、合併症と対処方法、食生活への支援等の在宅看護の実際について理解できる。	講義 (山本)
12回目	在宅医療技術 在宅中心静脈栄養	在宅中心静脈栄養法の適応と在宅看護の実際について理解できる。	講義 (山本)
13回目	在宅医療技術 創傷管理	在宅療養の日常生活における褥瘡予防と創傷管理の実際について理解する。 ＊演習（3階実習室）	講義・演習 (江守)
14回目	在宅医療技術 疼痛管理	在宅療養生活における疼痛管理について理解できる。	講義
15回目	在宅看護技術 まとめ 日常生活における安全管理	在宅看護の医療的ケアのまとめ 在宅看護におけるリスクの特徴が理解できる。	講義
受講上の注意 日常生活援助技術、医療技術は対象者主体でその実践方法を考えていこう！			評価方法 筆記試験：山本(30点) 江守(20点) 津田・上山(45点) 課題点：上山(5点)
使用するeテキスト 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 参考となるeテキスト		使用するテキスト 参考文献	

科目No. 65		配当時期 2年次前期		担当者 松本 留美 加藤 舞 田淵 眞由美	
科目名 公衆衛生看護学 公衆衛生看護技術論 時間割表記名 公衆衛生看護技術論		単位数 1単位 時間数 20時間(10回)			
科目のねらい 保健師の技術の中心となる保健指導の技術について理解を深める 授業目標 家庭訪問、健康相談、健(検)診などの業務を通して展開される保健指導技術を学ぶ				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	方法	学習成果		
1	公衆衛生活動における技術	講義	家庭訪問・健康相談・健診・保健指導・組織化活動・地域診断などの活動の要素と業務の中で活かされる技術を理解する		
2	個別指導の技術 健康相談	講義	コーチング、カウンセリング		
3	個別指導の技術 家庭訪問	講義	家庭訪問対象者の優先順位の決定		
4	個別指導の技術 家庭訪問	講義	訪問計画書の作成		
5	個別指導の技術 家庭訪問	講義	訪問計画書の作成		
6	健(検)診で必要な保健師の技術	講義	対象の選定と集団の健康状態の分析、健(検)診計画と評価 保健指導とフォローアップ		
7	集団へのアプローチ 健康教育	講義	健康教育の目的と目標		
8	集団へのアプローチ 健康教育	講義	健康教育企画書の作成		
9	集団へのアプローチ 健康教育	演習	健康教育企画書の作成		
10	住民の主体性を引き出す組織化活動	演習	住民の自己決定を支える技術		
受講上の注意 保健師活動に必要な技術を学びます。技術の項目が細かく分けてありますので、全て出席し主体的に学習に取り組んでください。				評価方法	
				健康相談 課題10点 健康診断 課題10点 組織化活動 課題10点 家庭訪問 課題35点 健康教育 課題35点	
使用するeテキスト 公衆衛生看護技術 対象別公衆衛生看護活動 参考となるeテキスト		使用するテキスト 厚生労働統計協会 国民衛生の動向 参考文献			

科目No. 67		配当時期 2年次前期		担当者 田淵 眞由美	
科目名	公衆衛生看護学 公衆衛生看護展開論Ⅱ	単位数	1単位		
時間割表記名	公衆衛生看護展開論Ⅱ	時間数	20時間(10回)		
科目のねらい 集団の健康課題を健診データから分析抽出し対象の応じた活動計画を立てる力を身に付ける				DPとの関連	
授業目標 1. 集団の健診データを読み、集団の健康課題を抽出する 2. 対象の健康課題解決に向けた保健活動計画を立てる				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	方法	学習成果		
1	生活習慣病予防 集団の健診結果を読み健康課題を抽出する	講義 演習	データ処理の方法がわかる 集団の情報を分析できる 健診データと生活を結び付けて考える		
2					
3					
4					
5	保健予防活動の対象者の選定 活動計画立案	演習	個・集団に対する活動と優先順位がわかる		
6					
7					
8					
9	まとめ 発表	演習	活動計画立案の経過を報告する		
10					
受講上の注意 集団の健康課題を抽出する基本を学びます。保健師の企画力につながる授業ですので、主体的に学んでデータ処理の技術をマスターしてください。				評価方法 課題提出状況	
使用するeテキスト 公衆衛生看護学概論			使用するテキスト 厚生労働統計協会 国民衛生の動向		
参考となるeテキスト			参考文献		

科目No. 69		配当時期 2年後期		担当者	
科目名 公衆衛生看護学 対象別保健活動論Ⅰ (成人保健・高齢者保健)		単位数 2単位		加藤 舞 安藤 えつ子 松本 留美 田淵 眞由美	
時間割表記名 対象別保健活動論Ⅰ		時間数 40時間(20回)			
科目のねらい 成人保健活動と高齢者保健活動の動向、施策、対象特性を理解し、具体的な保健活動の 実際を学ぶ 授業目標 1 成人・高齢者保健の動向を踏まえ、制度の在り方を考えることができる 2 家庭訪問や保健指導を通して、具体的な保健活動の実際を理解できる				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果			備考
1～2回	成人・高齢者 保健の動向	成人・高齢者保健の動向、歴史、対象特性を理解する			
3～4回	成人・高齢者 保健施策	健康日本21、介護保険法について理解できる			
5～6回	高齢者保健活動の演習	すこやか学級 前半/後半			
7～8回	成人・高齢者保健活動の実際	保健指導が理解できる			
9～10回	高齢者保健活動の実際	家庭訪問の計画を立てることができる			
11～12回	高齢者保健活動の演習	家庭訪問ができる			
13～15回	成人保健活動の実際	保健指導の計画を立てることができる			
16～17回	成人保健活動の演習	保健指導ができる			
18～20回	まとめ	成人保健・高齢者保健について振り返る			
受講上の注意				評価方法	
・講義資料は随時配布 ・関心を持って受け、積極的な授業参加を期待しています				1 課題・発表 50点 2 計画書・実施記録 35点 3 すこやか学級レポート 15点	
使用するeテキスト 公衆衛生看護技術 対象別公衆衛生看護活動		使用するテキスト 公衆衛生がみえる メディックメディア			
参考となるeテキスト		参考文献			

科目No. 75		配当時期 2年次前期	担当者	
科目名	成人看護学 成人看護学概論	単位数 1単位	森 広美	
時間割表記名	成人看護学概論	時間数 20時間(10 回)		
科目のねらい 成人各期にある対象の特徴を捉え、健康問題の経過に応じた看護の視点について理解できる 授業目標 1. 成人期各期にある対象の特徴を捉え、成人期の健康問題と課題について理解できる 2. 成人期にある対象の看護を支える考え方が理解できる 3. 成人看護学における倫理と課題について理解できる			DPとの関連	
			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	
			共同・課題解決	○
			探求・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール:回数・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回 数	学習目標	学習内容		方法
第 1 回	成人期にある対象が理解できる	・成人の成長発達の特徴(発達段階の理解) ・エリクソンの発達理論 ・ハヴィガーストの発達課題の活用		講義 GW 医P4～25 ナP20～49
第 2 回	成人期の対象を総合的に理解できる	・GWの発表 ・成人保健の動向を調べてみよう		GW 調べ学習 (国民衛生の動向)
第 3 回	成人と健康	・成人を取り巻く環境生活から見みた健康 ・生活と健康をまもりはぐむシステム		講義 ワーク 医P44～84
第4回	成人の生活習慣に関連する健康問題	・生活習慣に関連する健康問題 ・ワークライフバランスと健康障害		講義 ワーク ナP152～195
第5回	学習の特徴と看護	・大人の学びの特徴 ・エンパワーメントのアプローチ		講義 ワーク ナP128～146
第 6 回	病みの軌跡①	・病みの軌跡とは ・慢性病について考える		講義 ワーク ナP228～251 医P240～264
第 7 回	病みの軌跡②	・「編みなおし」について考える：事例		講義 ワーク ナP228～251
第 8 回	セルフケアとは ストレスと危機	・オレムのセルフケア不足理論 ・ストレスコーピング理論 ・危機理論（フィンク・アギュララ・メズイック）		講義 ワーク
第 9 回	自己効力感、ヘルスプロモーション	・自己効力感とは ・ヘルスプロモーションの目的、プロセスと方法		講義 ワーク
第10回	健康問題のアセスメント	・事例を通したヘルスアセスメントの理解		講義 ワーク
受講上の注意 テキストの内容を熟読して下さい。 ワーク時、パソコンの持参可能。			評価方法 課題 50点 筆記 50点	
使用するeテキスト ナーシンググラフィカ 成人看護学①成人看護学概論（メディカ出版）			使用するテキスト 国民衛生の動向	
参考となるeテキスト 成人看護学総論			参考文献	

科目No. 76		配当時期	担当者
科目名 成人看護学 成人看護学方法論Ⅰ (救急看護とクリティカルケア看護)		2年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	森 広美 (1回～10回) 嘉田 真希 (11回～15回)
時間割表記名 成人看護学方法論Ⅰ			
科目のねらい 救急看護、クリティカルケア看護を必要とする成人期の対象と家族を理解し、生命の危機的状態から回復を促すための看護を学ぶ			DPとの関連
授業目標 ①救命の必要な患者、クリティカルな患者とその家族について理解できる ②救急看護、クリティカルケア看護に必要な看護技術について理解できる			人間理解 倫理・関係構築 看護実践 協同・課題解決 探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習成果	学習内容	備考
1回	救急看護とは何かが理解できる 救急看護：急二次救命処置（ALS）、呼吸障害への救急処置と看護が理解できる	救急看護体制、救急患者のアセスメント、多職種連携、患者の権利と倫理 呼吸機能障害の病態生理、アセスメント、ケア	講義
2回	救急看護：ショック・循環障害における救急処置と看護が理解できる	ショックの定義と分類、循環障害のある患者の看護（脱水・溢水、カリウムバランス異常、血糖の異常）	講義
3回	救急看護：感染症、体温異常、熱傷、中毒などの救急処置と看護が理解できる	感染症への対応、体温異常・外傷、熱傷への対応、中毒への対応	講義
4回	救急看護、クリティカルケア看護に必要な看護技術が理解できる	二次救命処置（気管挿管・気道確保）、鎮痛・鎮静と輸液管理、モニターの管理 Vライン・Aライン・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義 演習 (外部講師)
5回			
6回	クリティカルケア看護の特性が理解できる クリティカルな患者の病態の理解と看護	患者・家族の特徴 過大侵襲を受けた患者の生体反応	講義
7回	クリティカルな患者の病態と看護が理解できる (呼吸管理)	呼吸機能障害の病態生理、アセスメント、ケア (酸素療法、人工呼吸器の種類・設定とケア)	講義
8回	クリティカルな患者の病態と看護が理解できる (循環状態の管理)	意識障害、脳神経系の疾患における救急処置 アセスメント・看護ケア	講義
9回	脳・神経系の障害における救急処置と看護が理解できる (脳・神経機能障害－①)	意識障害、脳神経系の疾患における救急処置 アセスメント・看護ケア	講義
10階	クリティカルな患者の病態と看護が理解できる (脳・神経機能障害－②)	脳・神経機能障害の病態生理、アセスメント、ケア	講義
11回	循環機能障害にある患者の看護計画が理解できる	低心拍出量症候群・律動異常に対する看護計画	講義
12回	呼吸機能障害と循環障害のあるクリティカルケアが必要な患者の看護技術が理解できる	異常呼吸音からのアセスメント、ケア、人工呼吸器の管理、循環動態のモニタリング、ドレーン管理、創傷管理	講義・演習
13回			
14回	クリティカルな患者の病態と看護が理解できる (精神機能機能障害)	精神機能障害の発生機序、アセスメント、ケア 危機状態にある患者・家族へのケア、看護計画	講義
15回	クリティカルな患者の病態と看護が理解できる (消化器)	消化機能障害の病態生理、アセスメント、ケア 食道静脈瘤破裂のケア、急性膵炎のケア	講義
受講上の注意 演習は実習指導者等も参加します。ふさわしい身だしなみを整えて参加してください。			評価方法 筆記試験 60点 課題 20点 演習 20点（出席点含む）
使用するeテキスト ・別巻 救急看護 ・別巻 クリティカルケア看護学 ・成人看護学（2）呼吸器 ・成人看護学（3）循環器 ・成人看護学（5）消化器 ・成人看護学（7）脳・神経			使用するテキスト ・別巻 臨床外科看護総論 参考文献

科目No. 78		配当時期	担当者
科目名	成人看護学	2年次後期	第1・14回 森広美/第11回 阿形奈津子
時間割表記名	成人看護学方法論Ⅲ	単位数	第2・3・4回 江隈 あすか
	成人看護学方法論Ⅲ	1単位	第5・6回 池田 照子
		時間数	第7・8回 大島 恭子
		30時間(15回)	第9・10回 荒木 有紀
			第12・13回 稲津 勇人
			第15回 小西 弘晃
科目全体のねらい・授業目標		DPとの関連	
ねらい : リハビリテーション期にある成人の対象者を理解し、日常生活の再構築に向けた看護を学ぶ			
授業目標 : 1. リハビリテーションの概念が理解できる		人間理解	○
2. リハビリテーション期の患者・家族の心理過程が理解できる		倫理・関係構築	○
3. 障害が日常生活に及ぼす影響が理解できる		看護実践	○
4. 日常生活の再構築のための看護が理解できる		協同・課題解決	○
5. 社会復帰に必要な社会資源とその活用方法また、退院に向けた生活支援技術を理解することできる		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習目標	学習内容	方法
第1回	リハビリテーションの概念が理解できる リハビリテーションを必要とする対象が理解できる	・リハビリテーションの定義と歴史的背景、対象と制度 ・ICD・ICIDH・ICF ・リハビリテーションの分類と経過別リハビリテーション ・リハビリテーションを必要とする対象の身体・心理・社会的特徴	講義・ワーク (森)
第2回	脳血管疾患を患う患者のリハビリテーション期の看護が理解できる	脳血管障害とそれに伴う機能障害の種類 (脳梗塞、脳出血、脳ヘルニアなど)	講義 (江隈)
第3回	脳血管疾患により運動機能障害となった患者の生活の再構築のための援助と二次的障害の予防が理解できる	運動麻痺と生活への影響 二次障害(廃用症候群)の予防とその指導 機能訓練とその方法と評価	講義 (江隈)
第4回	高次脳機能障害の生活の再構築と対象・家族への理解と支援方法が理解できる	認知・認識・注意・見当識・言語障害の理解とその援助方法(半側空間無視・失見当識・注意障害・失語・記憶障害など)	講義 (江隈)
第5・6回	摂食嚥下のメカニズム・嚥下機能障害の原因 摂食嚥下障害のスクリーニング・評価 嚥下機能障害の患者の食事の自立のための援助が理解できる	・摂食、嚥下のメカニズム：嚥下機能の仕組み解剖の復習 ・嚥下障害を引き起こす疾患・状態などについて ・摂食嚥下障害のスクリーニング・評価・検査(実技演習を実施) ・嚥下障害のある患者に対する介助方法 ・介助時に使用する補助具 ・食事形態 ・実際の事例紹介(成功事例、難しかった事例)	講義・演習 (池田)
第7・8回	社会資源の活用と退院支援看護を理解できる	・現在適用されている社会資源の種類・制度について ・退院支援に携わる多職種連携・チームでの取り組みについて ・退院後の地域での社会生活を見据えた看護 ・実際の事例を通して(最近の傾向、問題点など)	講義・ワーク (大島)
第9・10回	循環器疾患の治療を受ける患者のリハビリテーション期の看護が理解できる 日常生活の再構築に向けた看護と生活支援技術について理解できる	・心筋梗塞治療後の患者の看護 ・冠動脈バイパス手術を受けた患者の看護 ・心不全における患者の看護	講義 (荒木)
第11回	循環機能障害の原因と治療、リハビリテーションを阻害する要因が理解できる 循環機能障害者の生活の再構築のための援助が理解できる	・心筋梗塞の症状、検査所見、治療 ・心胸郭比、不整脈の心電図波形 ・心臓リハビリテーションの定義、内容 ・心臓リハビリテーションと看護	講義 (阿形)
第12・13回	運動器の手術を受ける患者の看護(術前・術後の体位保持など)、 リハビリテーションの実践が理解できる 運動機能障害ある患者の生活の再構築に向けた援助が理解できる	・大腿骨人工骨頭全置換術、腰部、頸部疾患における手術 ・手術前の牽引療法、固定療法 ・運動器の術式、手術が与える生活への影響 ・術後リハビリテーションの実践、適切な体位変換・保持、禁忌体位 ・運動機能障害のある患者の移乗・移動介助、自動他動運動	講義・演習 (稲津)
第14回	脳血管疾患、循環器疾患、運動器疾患患者他の事例展開	関連図、看護診断立案・看護計画の作成の実施	講義・ワーク (森)
第15回	麻痺のある患者のリハビリテーション看護の実践が理解できる	・脳血管疾患に伴う機能障害を持つ対象への看護 ・麻痺のある患者への日常生活援助におけるリハビリテーション看護(移乗動作、排泄動作、その他) ・看護支援の際のリスクがわかる	講義・演習 (小西)
受講上の注意		評価方法	
看護を実践するには科学的根拠が必要です。 解剖生理や病態の理解を深め(復習しておくこと)、看護実践へ向けた学習に取り組みましょう		・筆記試験 : 50点 ・課題提出点 : 50点	
使用するテキスト:		参考文献	
①リハビリテーション看護 ②成人看護学 脳・神経 ③成人看護学 循環器 ④成人看護学 運動器 ⑤成人看護学 呼吸器		* 使用テキスト等については講義の中で紹介します。	

科目No. 81		配当時期		担当者	
科目名		2年次前期		筒井 恵美(1～14回)	
老年看護学 老年看護学方法論Ⅰ		単位数		いのうえ けいこ 井上 桂子 (15回)	
時間割表記名		1単位			
老年看護学方法論Ⅰ		時間数			
		30時間(15回)			
科目のねらい 加齢・健康問題に伴い必要となる日常生活への支援技術を理解する。				DPとの関連	
授業目標				人間理解	
1.高齢者が介助を受けながら自立して、生きがいのある生活をしていくための援助の方法が理解できる				○	
2.日常支援技術の意義について理解できる				倫理・関係構築	
3.日常生活支援技術が実践できる				○	
4.高齢者のリハビリテーションについて企画することができる				看護実践	
				○	
				協同・課題解決	
				○	
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
		学習内容	学習成果	備考	
筒井	1回目	高齢者の生活機能と看護① 基本動作	・生活行動を行うための基本動作がわかる ・高齢者総合機能評価 (CGA)の意義と内容について理解できる	講義	
	2回目	高齢者の生活機能と看護② 廃用症候群 フレイルの予防	・廃用症候群のアセスメントと看護が理解できる ・フレイルの予防の意義を理解し、その方法を考えることができる	講義	
	3回目	老年症候群	老年症候群の概要が理解できる	講義	
	4回目	高齢者の生活を支える看護① 食事	・高齢者の栄養状態の特徴や、高齢者の栄養ケア・マネジメントについて理解できる ・身体・認知機能に応じた食事と食生活を支援する方法を理解できる	講義・ワーク	
	5回目	高齢者の生活を支える看護② 転倒対策、活動と休息	①高齢者の転倒要因と対策について理解できる ②高齢者の睡眠状況と身体能力から、活動と休息のバランスを理解できる	講義・ワーク	
	6回目	高齢者の生活を支える看護③ 排泄、清潔	③身体・認知機能に応じた排泄を支援する方法を理解できる ④身体・認知機能に応じた清潔を支援する方法を理解できる	講義・ワーク	
	6回目	事例への援助を考える	事例対象をアセスメントし、生活援助を考えることができる (認知症の対象への関わり方、高齢者の特徴をふまえて考えることができる)	ワーク	
	7回目				
	7回目	高齢者の生活を支える看護⑤	高齢者に必要な生活支援技術の実際を理解できる(実践する)	演習 (実習室)	
	8回目				
	10回目	高齢者のリハビリテーション①	高齢者のリハビリテーションの意義・方法が理解できる	GW	
	11回目	高齢者のリハビリテーション② 遊びリテーションの企画	・遊びリテーション企画用紙の作成 ・遊びリテーション実施の準備	GW (講堂)	
	12・13回目	高齢者のリハビリテーション③ 遊びリテーションの実施	・遊びリテーションを実施できる(模擬) ・遊びリテーションの意義を考えることができる	演習発表 (講堂)	
	14回目	日常生活を支援する看護	高齢者の生活支援の意義が理解できる	GW	
井上	15回目	認知機能の障害に対する看護	・うつ状態の高齢者への看護が理解できる ・せん妄状態にある高齢者の看護が理解できる ・認知症高齢者への看護が理解できる	講義	
受講上の注意				評価方法	
高齢者の特徴をふまえて生活援助時の関わり方を考えていきましょう。				筆記試験(筒井 50点 井上 10点) 課題提出(筒井 40点)	
使用するeテキスト		使用するテキスト			
①老年看護学					
②老年看護 病態・疾患論					
参考とするeテキスト		参考文献			

科目No. 82		配当時期 2年次後期		担当者	
科目名 老年看護学 老年看護学方法論Ⅱ		単位数 1単位		筒井 恵美 8回（16時間） 森 広美 2回（4時間）	
時間割表記名 老年看護学方法論Ⅱ		時間数 20時間（10回）			
科目のねらい 老年期の治療環境下における看護を理解する 授業目標 1.高齢者の栄養マネジメントの意義を理解し、健康回復への方法を考えることができる 2.高齢者の薬物療法時の看護が理解できる 3.高齢者の特徴的な疾患とその看護が理解できる 4.治療を受ける患者の看護が理解できる				DPとの関連	
				人間理解	
				倫理・関係構築 ○	
				看護実践 ○	
				協同・課題解決 ○	
				探究・成長 ○	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
		学習内容	学習成果		備考
森	1回目	薬物療法を受ける高齢者の看護	・加齢に伴う薬物動態、高齢者への薬物投与の留意点を理解できる ・人体へのリスクの大きい薬剤の取り扱い、輸血療法と看護が理解できる ①抗がん剤の取り扱い方法の技術 ②輸血療法の基礎知識 ③輸血の準備と投与の実際		講義 演習
	2回目				講義 演習
筒井	3回目	治療環境下における高齢者看護	症状のある高齢者に対して、状況に応じた観察・看護を考え、実践することができる ・状況から必要な視点に気づき、状況判断を行うことができる ・状況に応じた観察を根拠をもって実施でき、報告できる ・状態からリスク予測できる ・必要な観察・看護を実践することができる ・自己の実践能力を振り返ることができる		授業時に 提示します （講義及び 演習）
	4回目				
	5回目				
	6回目				
	7回目				
	8回目				
	9回目				
	10回目				
受講上の注意 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰで学んだことを統合していきましょう。 疾患についての基本的な学習をおさえておきましょう。					
				評価方法 筆記試験（森 25点 筒井 20点） 課題提出（筒井 55点）	
使用するeテキスト ①老年看護学 ②老年看護 病態・疾患論 ③基礎看護技術Ⅱ			使用するテキスト		
参考となるeテキスト			参考文献		

科目No. 83		配当時期	担当者
小児看護学	2年次前期	はらだ きよみ 6時間(1~3回)	
科目名 小児看護学概論	単位数	原田 清美 4時間(4,5回)	
	1単位	田中 みゆき 8時間(11~14回)	
時間割表記名	時間数	あがた かずま 8時間(6,9,10,15回)	
小児看護学概論	30時間(15回)	大津 淳也 4時間(7,8回)	
科目のねらい 小児看護の対象・目的・看護の役割について学ぶ。また成長発達過程を理解し、成長・発達を促すための方法について学ぶ。また、小児を取り巻く環境について学ぶ		DPとの関連	
授業目標 1. 子どもと家族の概念を理解する 2. 子どもの成長と発達を理解する 3. 健康な子どもの成長発達過程を理解し、成長・発達を促すための方法を理解する		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	○
		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
	学習内容	学習成果	備考
1回目	子どもと家族の概念	1) 小児看護の対象・目的・役割を理解する 2) 小児看護における倫理を理解する	講義 (原田)
2回目	子どもの成長と発達	1) 成長・発達の一般原則を理解する 2) 成長発達の原則を理解する 3) 成長・発達の評価方法を理解する	講義 (原田)
3回目	子どもを取り巻く環境と施策	1) 小児看護の歴史の変遷を理解する 2) 小児を取り巻く社会環境について理解する 3) 子どもを取り巻く法律や施策について理解する	講義 (原田)
4回目	新生児期・乳児期の子どもの成長・発達	1) 各期の成長発達の特徴が理解できる	講義 (田中)
5回目	幼児期の子どもの成長・発達	2) 成長・発達を促す必要な養育について理解する	
6回目	新生児期～幼児期の子どもの看護	各発達段階に応じた健康の保持・増進に必要な看護の視点を理解する	講義 (大津)
7回目	学童期・思春期の子どもの成長・発達と看護	1) 学童・思春期の成長発達の特徴が理解できる	講義 (上山)
8回目		2) 発達段階に応じた健康の保持・増進を促す方法を理解する 3) 成長発達に沿って、必要な療育・看護について理解する	
9回目	成長発達評価表の作成	これまでの講義内容について知識の統合を行い、各発達段階ごとに 成長発達評価表を作成できる	演習 (大津)
10回目	成長発達評価表の成果発表		
11回目	子どもの生活の場と環境	1) 子どものいる家庭環境について理解できる 2) 保育所の役割とその環境について理解できる	講義 (阿形)
12回目	子どもと遊び	1) 遊びの種類と子どもへの関わり方が理解できる	演習 (阿形)
13回目		2) 子どもとコミュニケーション方法が理解できる	
14回目		3) 基本的な保育方法が理解できる	
15回目	まとめ	小児看護学Ⅰ実習の学びとこれまでの知識を統合できる	演習 (大津・上山)
受講上の注意 6月の小児看護学Ⅰ実習に繋がる学習内容で、実習で学ぶための準備ともいえます。 丁寧に取り組んでいきましょう。		評価方法 筆記試験 原田(20点) 田中・大津・上山(40点) 課題点(演習参加状況含む) 阿形(30点)大津(10点)	
使用するeテキスト 小児看護学概論 小児臨床看護総論 参考となるeテキスト		使用するテキスト 参考文献	

科目No. 84		配当時期	2年次全期		担当者
科目名	小児看護学 小児看護学方法論Ⅰ	単位数	1単位		大津 惇也 篠塚 淳 栗國 仁志 足立 優希
時間割表記名	小児看護学方法論Ⅰ	時間数	20時間(10回)		
科目のねらい 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響と看護について学ぶ					DPとの関連
授業目標 1. 小児の代表的な疾患における成因・症状・治療について理解できる 2. さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護について理解できる					人間理解 ○ 倫理・関係構築 ○ 看護実践 ○ 協同・課題解決 ○ 探究・成長 ○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
担当	回数	学習内容	学習成果		備考
大津	1回目	子どもの健康問題と看護の学習方法について	子どもの健康問題の見方・看護への活かし方を理解する		
篠塚	2回目	遺伝子病・先天性代謝異常症・染色体異常症 その他新生児の代表的疾患、新生児タンデム・マス	新生児期の代表的な疾患における成因、症状、治療について理解できる		
	3回目	新生児の疾患(肥厚性幽門狭窄症・ヒルシュブルグ病・鎖肛・腸重責症)	新生児期～乳児期に多い消化器疾患における成因、症状、治療について理解できる		
	4回目	先天性心疾患(ファロ四徴症・VSD・ASD)・ 乳幼児突然死症候群 細気管支炎	新生児期～乳児期に多い心疾患における成因、症状、治療について理解できる		
	5回目	気管支喘息・食物アレルギー・クルーヅ症候群・肺炎・鉄欠乏性貧血・低身長	乳幼児期に多い呼吸器疾患・アレルギー疾患などにおける成因、症状、治療について理解できる		
栗國	6回目	小児期によくみられる感染症(麻疹・風疹・水痘・ムンプス・突発性発疹症・百日咳・溶連菌感染症・インフルエンザ/新型コロナウイルス等流行疾患) 髄膜炎・腸炎・尿路感染症	小児期によくみられる感染症における成因、症状、治療について理解できる		
	7回目	熱性けいれん・点頭てんかん・脳性まひ・筋ジストロフィー・ADHD	小児期に多い神経疾患における成因、症状、治療について理解できる		
	8回目	急性腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病・JIA・SLE・血管性紫斑病・ITP	幼児期・学童期に多い疾患における成因、症状、治療について理解できる		
	9回目	白血病・神経芽細胞腫・ウィルムス腫瘍・血友病・再生不良性貧血	小児期に多い悪性腫瘍疾患における成因、症状、治療について理解できる		
足立	10回目	心身に障害を持つ子どもと家族の看護	障害のある子どもの特徴と看護の必要性を理解する		
受講上の注意			評価方法 筆記試験：大津10点・篠塚40点・栗國40点・足立10点		
使用するeテキスト 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論			使用するテキスト 参考文献		

科目No. 85		配当時期	2年次全期		担当者	
科目名	小児看護学 小児看護学方法論Ⅱ	単位数	1単位		はらだ きよみ 原田 清美(1～6) くりばやし ゆうき 栗林 佑季(7, 8) ふくち ともこ 福地 朋子(9～11) 嘉田 真希(12, 14) 大津 惇也(13) 山口 さゆり(15)	
時間割表記名	小児看護学方法論Ⅱ	時間数	30時間(15回)			
科目のねらい 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響と看護について学ぶ					DPとの関連	
授業目標 1. さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護について理解できる					人間理解	○
					倫理・関係構築	○
					看護実践	○
					協同・課題解決	○
					探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)						
	学習内容	学習成果			備考	
1	病気や入院が子どもや家族に与える影響 外来・在宅における子どもと家族の看護	病気や入院が子どもと家族に与える影響やその看護について理解できる 外来・在宅における看護の役割について理解する			講義 (原田)	
2	慢性期にある子どもと家族の看護	慢性期にある子どもと家族への看護を理解できる				
3	急性期にある子どもと家族への看護①	発熱・脱水を伴う子どもと家族への看護について理解できる			講義 (原田)	
4	急性期にある子どもと家族への看護②	呼吸困難・発疹・けいれん・意識障害を伴う子どもと家族への看護について理解できる				
5	急性期にある子どもと家族への看護③	子どもに多い事故・外傷・救急処置を必要とする子どもと家への看護について理解できる			講義 (原田)	
6	川崎病の子どもと家族への看護	川崎病の子どもとその家族への看護について、具体的な援助方法が理解できる				
7	ネフローゼ症候群の成因・症状・治療・検査 ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護	ネフローゼ症候群の病態が理解できる ネフローゼ症候群の治療や検査が理解できる			講義 (栗林)	
8	ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護	治療処置別看護(安静・食事・薬物療法)が理解できる				
9	白血病の成因・症状・治療・検査	白血病における病態が理解できる 白血病における治療や検査が理解できる			講義 (福地)	
10	白血病の子どもと家族の看護①	治療・検査の支援が理解できる 子どもと家族とのコミュニケーションが理解できる				
11	白血病の子どもと家族の看護②	化学療法・造血幹細胞移植時の看護が理解できる 退院に向けた支援が理解できる				
12	手術を受ける子どもの看護①	手術前の子どもとその家族の看護について理解できる			講義 ワーク	
13	手術を受ける子どもの看護②	手術中の子どもとその家族の看護について理解できる			講義 ワーク	
14	手術を受ける子どもの看護③	手術後の子どもとその家族の看護について理解できる			講義 ワーク	
15	終末期にある子どもと家族の看護	終末期の小児と家族の看護の特徴が理解できる			講義	
受講上の注意					評価方法 筆記試験：原田40点・栗林15点 課題提出：福地20点・嘉田大津20点・山口5点	
使用するeテキスト ①小児看護学概論 小児臨床看護総論 ②小児臨床看護各論					使用するテキスト	
参考文献となるeテキスト					参考文献	

科目No. 88		配当時期	担当者	
科目名		2年次後期		
母性看護学	単位数		まぶち なるみ 馬淵 成美(1,2,3,14,15回)	
母性看護学方法論Ⅰ	1単位			
時間割表記名	時間数		あすか バンダーレ 明日香(4～9回)	
母性看護学方法論Ⅰ	30時間(15回)		岡田 瑞宝(10～13回)	
科目のねらい			DPとの関連	
妊娠期・分娩期・産褥期の身体的、心理・社会的特性および胎児の成長発達と新生児の生理的特性について理解し、妊産褥期婦・新生児とその家族への看護の方法について学ぶ			人間理解	
授業目標			倫理・関係構築	
マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥・新生児）の正常経過ならびに異常について理解する			看護実践	
マタニティサイクルにある母子とその家族が健康的な生活を送るために必要な看護を理解できる			協同・課題解決	
授業を通して自己の母性観を発展させることができる			探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
	回数	学習内容	学習成果	備考
馬淵	1回	妊婦の身体的特性、心理社会的特性	妊婦と胎児の身体的特性、心理社会的特性について理解できる	
	2回	妊婦と胎児の健康状態のアセスメント(ウェルネスの視点)	妊婦と胎児の正常経過と看護について理解できる	
	3回	親になるための準備教育	母子保健サービスについて理解できる。妊婦の保健指導（相談）の実際が分かる	
バンダーレ	4回	正常な分娩経過と安全・安楽への分娩期の看護	正常な分娩経過とその看護について理解できる	
	5回	異常のある産婦の看護	おもな分娩期の異常を看護について理解できる	
	6回	正常な産褥経過、健康状態のアセスメント	産褥期の身体的変化、心理社会的特性が理解できる	
	7回	妊娠期・分娩期の母性看護技術	(技術演習)事例を用いてレオポルド触診法、産痛緩和、呼吸法の援助を学ぶ	
	8回	褥婦と家族への看護	母親役割獲得過程について理解できる。児との関係確立への看護が理解できる	
	9回	褥婦の異常と看護	おもな褥婦の異常と看護について理解できる	
岡田	10回	新生児の生理・機能	新生児の生理・機能について理解できる。新生児の健康状態のアセスメントができる	
	11回	新生児の看護	新生児の出生直後か退院までの看護について理解できる	
	12回	新生児期に必要な母性看護技術	(技術演習) 新生児の観察技術、育児技術の修得ができる	
	13回	新生児期に必要な母性看護技術	(バイタルサイン測定、全身状態の観察、沐浴)	
馬淵	14回	ハイリスク妊婦の看護	ハイリスク妊娠とその看護について理解できる	
	15回	新生児の異常と看護	おもな新生児の異常と看護について理解できる	
受講上の注意			評価方法	
解剖生理、病態生理など母性看護学概論で学んだ既存の知識を想起して、毎回の授業の復習をして、3年次の母性看護学方法論Ⅱの授業につなげていきましょう。			筆記試験・レポート課題・出席・授業態度等	
			馬淵 (30点)	
			バンダーレ (40点)	
			岡田 (30点)	
使用するeテキスト			使用するテキスト	
母性看護学概論			教材用母子健康手帳	
母性看護学各論			根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院)	
参考となるeテキスト			マタニティ診断ガイドブック (医学書院)	

科目No. 92		配当時期		担当者	
科目名		2年次後期		石束 佳子	
精神看護学		単位数			
精神看護学方法論Ⅰ		1単位			
時間割表記名		時間数			
精神看護学方法論Ⅰ		30時間(15回)			
科目のねらい 人の心の構造について理論を通して理解し、様々な事例を通して精神看護を実践するための基礎的知識・技術を学ぶ 授業目標 1. 心の健康問題を持つ人へのケアには治療的人間関係技術を活用することを理解する。 2. 心の健康問題を持つ人が、回復に向かうためのさまざまなアプローチを理解する。 3. チームメンバーとの協同を通して、自ら考え、学び、良いものを創り出す姿勢を培うことができる。				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習テーマ	学習成果			備考
1回目 2回目	科目オリエンテーション 授業のねらいと進め方 精神看護とは何か	科目の概要、ねらい、進め方を理解する。 精神看護の本質を理解し、その方法を学ぶ意欲がわく。			講義 LTD ミーティング
3回目 4回目	セルフケア不足の患者の看護 フロイトの力動論 オレム＆アンダーウッドのセルフケア理論 治療的人間関係技術(エネルギーの観点から)	患者の自立に向けて、看護者がどのように関われば良いかを理解する。 フロイトの力動論を知り、意思決定の構造を学ぶ。 セルフケア理論を理解し、援助に繋げる方法を学ぶ。			講義 事例 ワークシート
5回目 6回目 7回目	病的多飲水のある患者の看護 ペプロウ看護論	患者自らが病的多飲水を止めるには、看護者はどのように関われば良いのか、ペプロウ看護論におけるパターン相互作用論を用いて考える。 ペプロウ看護論及びペプロウのパターン相互作用論を理解する。			LTD ミーティング まとめ
8回目 9回目 10回目	拒否する患者の看護 対象関係論を通して	拒否する患者の心の中を理解し、患者自身が行動変容を行える為の看護者の関わりを、クラインの対象関係論を用いて学ぶ。 人間の心性を理解する。			LTD ミーティング まとめ
11回目	シミュレーションで身につける精神看護技術	基本的な人間関係技術を土台に、精神科看護の対象とのコミュニケーションを考える。			演習
12回目 13回目 14回目	事例の患者の臨床判断	1. 病気のメカニズムを理解し、患者に起こりうる状況を予測できる。 2. 病状の変化に気づくことができる。 3. 患者の突発的状況を判断し、適切に対応することができる。 4. 精神障害を持つ患者に関心を持ち、患者の思いが理解できる。 5. 自らの行動について省察し、課題を見いだすことができる。			演習
15回目	精神科における安全・レジリエンス・リカバリ・TIC まとめ	自殺・暴力・無断離院の現状を知り、予防と患者の安全を守るためのリスクマネジメントを理解する。ストレスと心の精神保健を理解する。			講義
受講上の注意				評価方法	
授業には事前学習があります。事前学習は、クラス・グループで意見交換をするための材料になりますので、準備して臨んでください。 チームメンバー・クラスメイトは多様な意見がありますので、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを拡げたり、深めたりしてください。				課題 100点	
使用するeテキスト		使用するテキスト			
①精神看護の基礎 ②精神看護の展開					
参考とするeテキスト		参考文献 随時、紹介			